

刊行にあたって

島根県は、東西およそ200kmにわたる細長い本土部分と日本海に浮かぶ隠岐諸島などからなります。南部県境に連なる中国山地ではブナの自然林など豊かな森林地帯が広がり、斐伊川、江の川、高津川などの源流となっています。古くから農業や林業、良質な砂鉄を原料とするたたら製鉄などが営まれ、自然と調和した里山などの地域が形成されてきました。

また、国内最大の汽水域でラムサール条約湿地に登録されている宍道湖・中海、さらに特異な地質形成や独自の生態系などが認められ、平成25年9月に世界ジオパークに認定された隠岐諸島など、優れた自然環境を有し、多様な野生動植物が生息・生育しています。

一方で、近年の産業や生活様式の変化による自然環境への負荷や、外来種の侵入などにより、多くの動植物が絶滅の危機に直面しています。島根の豊かな自然を未来に引き継いでいくことは、私たちの願いであるとともに、課せられた責務でもあります。

県では、平成11年に「島根環境基本計画」を策定し、「人と自然の共生の確保」を基本目標の一つに掲げ、生物多様性の確保に向けて施策を進めています。また、「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」を平成22年3月に公布し、絶滅のおそれのある野生動植物の保護対策の強化を図っています。

こうした施策の一環として、県内の希少な野生動植物の状況について、県民の皆様へ情報提供を行うため、平成9年に全国に先駆けて、「しまねレッドデータブック」を発行しました。その後、平成16年に改訂を行い、開発行為等に際しての保護対策の基礎資料としても活用いただけてきました。

平成22年には、生息生育実態等の状況変化など最新の情報を反映させた第2次改訂版を作成するために、「しまねレッドデータブック改訂委員会」を設置しました。委員会で検討を重ね、昨年3月に「改訂しまねレッドデータブック」の「2013植物編」を先行して発行し、そして、このたび「2014動物編」を発行する運びとなりました。

本書が島根の豊かな自然環境や多様な野生動植物を守るための基礎資料として活用され、県民の皆様の自然保護に対する理解を深めていただくきっかけになることを願っております。

終わりに、しまねレッドデータブック改訂委員会委員の皆様をはじめ、本書の発行に御協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

平成26年3月

島根県知事 溝 口 善兵衛